資料　1

ブナ帯文化のふるさと
水の郷in北秋田
あきた森づくり活動サポートセンター
ふるさと水と土指導員　菅原　徳蔵

■ ブナの森…主に東北から北海道西部に分布
■ ブナ帯地域の暮らしと文化→ブナ帯文化
① 北秋田市の木と鳥…ブナとクマゲラ
② ブナ帯文化の代表がマタギ文化
③ マタギと言えば北秋田市
→ブナ帯文化のふるさと
■ 北秋田市森吉地域「水の郷百選」(国交省)
→水の郷IN北秋田
ノロ川のブナ林「クマゲラの森」

秋田に最も影響を与えた巨人・余所者

- 1773年6月～10月末、鉱山再開発のコンサルタントとして秋田藩へ

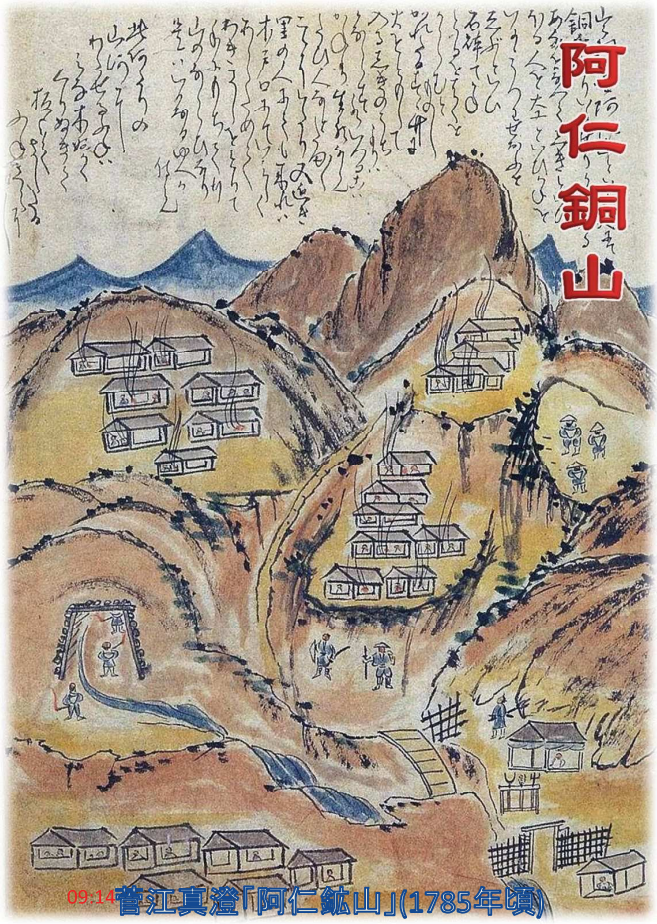
① 銅から銀を採り出す「南蛮吹法」を伝授
② 小田野直武に西洋画法伝授→秋田蘭画
③ 熱気球の原理を応用した遊び「紙風船(仙北市上桧木内)」

平賀源内

- 1785年～1805年、森吉山麓周辺に8回も訪問
- 森吉山には二回も登山
- 紀行文を読めば、ブナ帯地域の自然、暮らしと文化を愛した

菅江真澄

阿仁銅山



菅江真澄「阿仁鉱山」(1785年頃)

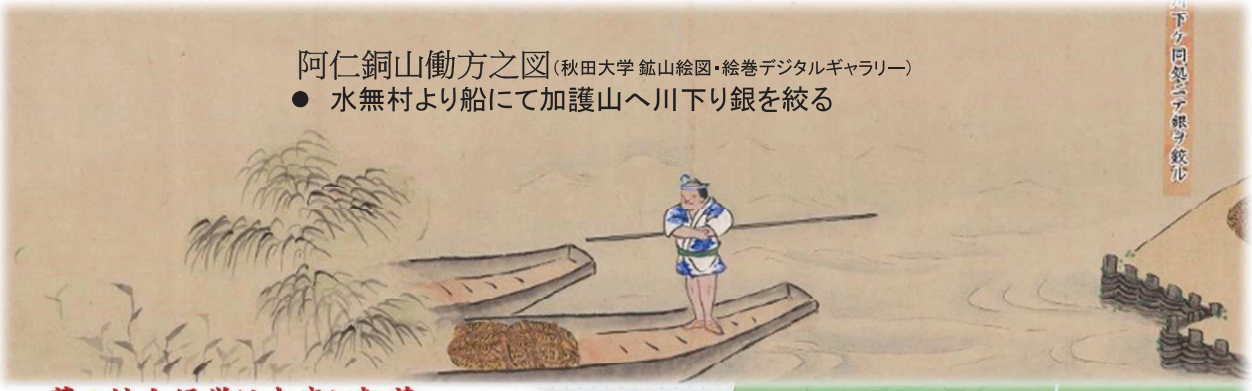
- 18世紀初め…年間の出銅額は、コメに換算すると約70万石、日本一の銅山
- 阿仁の粗銅には多くの銀が含まれていたが、それを取り出す精錬技術は幕府の門外不出の技術。
- 阿仁銅山の粗銅は、北前船で大阪まで運ばれ、幕府指定の吹屋で再び製錬され、銀を絞り出した後、幕府貿易の決済に。
- 幕府の買値は、相場よりかなり安く、美味い汁は幕府と大阪の商人、吹屋に吸い上げられていた。

阿仁銅山・黄銅鉱

阿仁銅山働方之図（秋田大学 鉱山絵図・絵巻デジタルギャラリー）

焼窯に薪を積み、ハクを水にて混ぜ合わせ燃えたてる

- 絵図を見れば、製錬には大量の薪と炭を要したことが分かる。
- 銅山用の山留材、薪炭を伐り出す藩直営の山を設定…阿仁と森吉にとどまらず、桧木内、小阿仁川流域、小猿部川流域まで拡大。



阿仁銅山働方之図（秋田大学 鉱山絵図・絵巻デジタルギャラリー）

- 水無村より船にて加護山へ川下り銀を絞る

- 藩の鉱山経営は赤字に転落。
- 1773年、平賀源内と鉱山師・吉田利兵衛を秋田に招いた。
- 阿仁の粗銅から、鉛を使って銀を採り出す「南蛮吹法」を伝授。
- 翌年、二ツ井町荷上場に加護山精錬所誕生

加護山精錬所（秋田大学 鉱業博物館）

南蛮吹法（国立国会図書館）

- 1862年の収支…2万8800両という莫大な利益

菅江真澄「みかべのよろい」

人面土器「みかべのよろい」（阿仁戸鳥内）

- 1805年7月3日～8月15日の紀行文
- ブナ帯文化の基層となる縄文文化、アイヌ語地名、マタギ文化を発見する旅。

羽立地内の元堰（岩堰）

- 1731年、坊沢村肝煎長崎家4男
- のち七日市村親郷肝煎長岐家養子に
- 25歳の若さで長岐家七代目を継ぐ
- 1820年10月1日、90歳で逝去。長生きたお陰で「老農置土産」「置ミやげ添日記」「農業心得記」など多数の著作を残し、明治以降の老農たちに継承。

長岐家七代目
長崎七左衛門

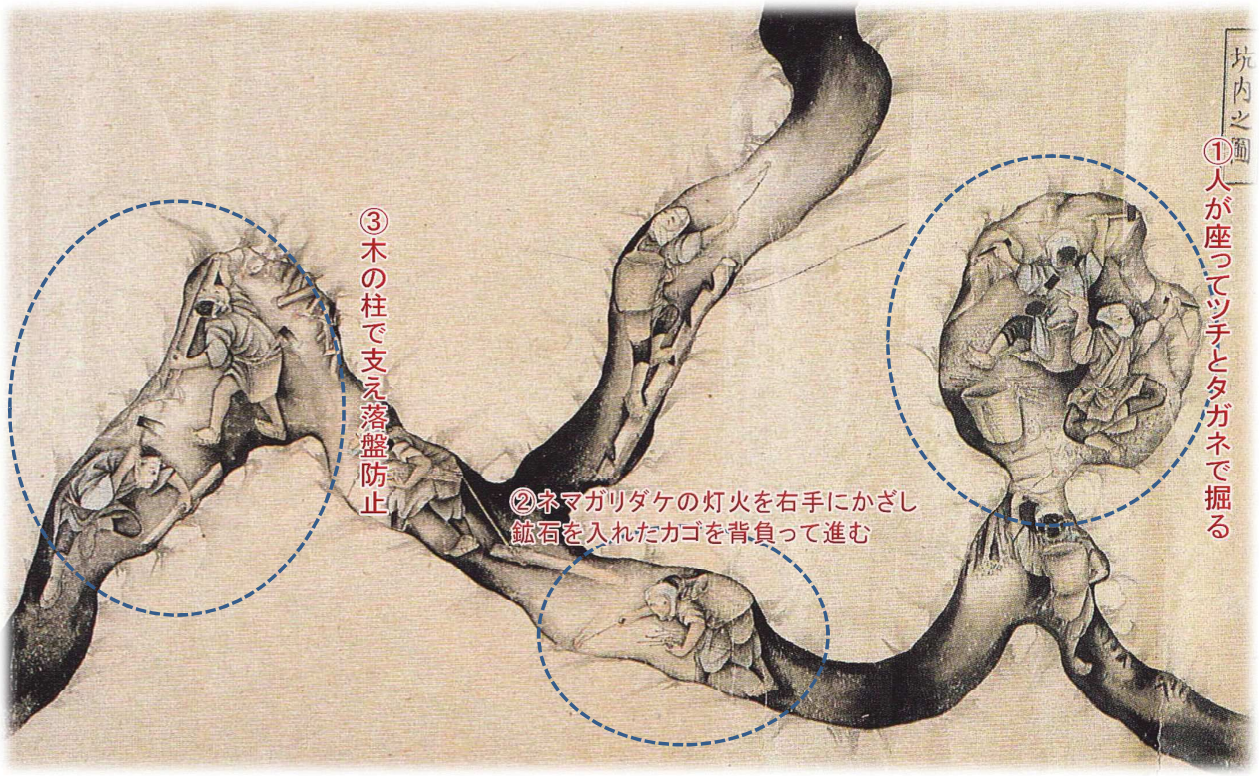
- 1753年8月20日ミゾレが降り凶作、翌年水不足と虫の害で凶作
- 翌々年5月24日洪水により関根、用水路の全てを破壊＋虫の害で大凶作
- 七日市村の1/3はつぶれ、240石余りが荒地、耕作放棄
- 3年連続の大凶作に見舞われた1755年、七左衛門が肝煎就任

- 最初に手掛けたのは、水の確保
- 木の樋、掛樋→洪水が起きる度に破壊され、農民たちの苦の種
- 鉱山技術を活用→断崖絶壁に水路トンネル(中堰)、木製掛樋→大留堰提等を完成

元堰（岩堰）

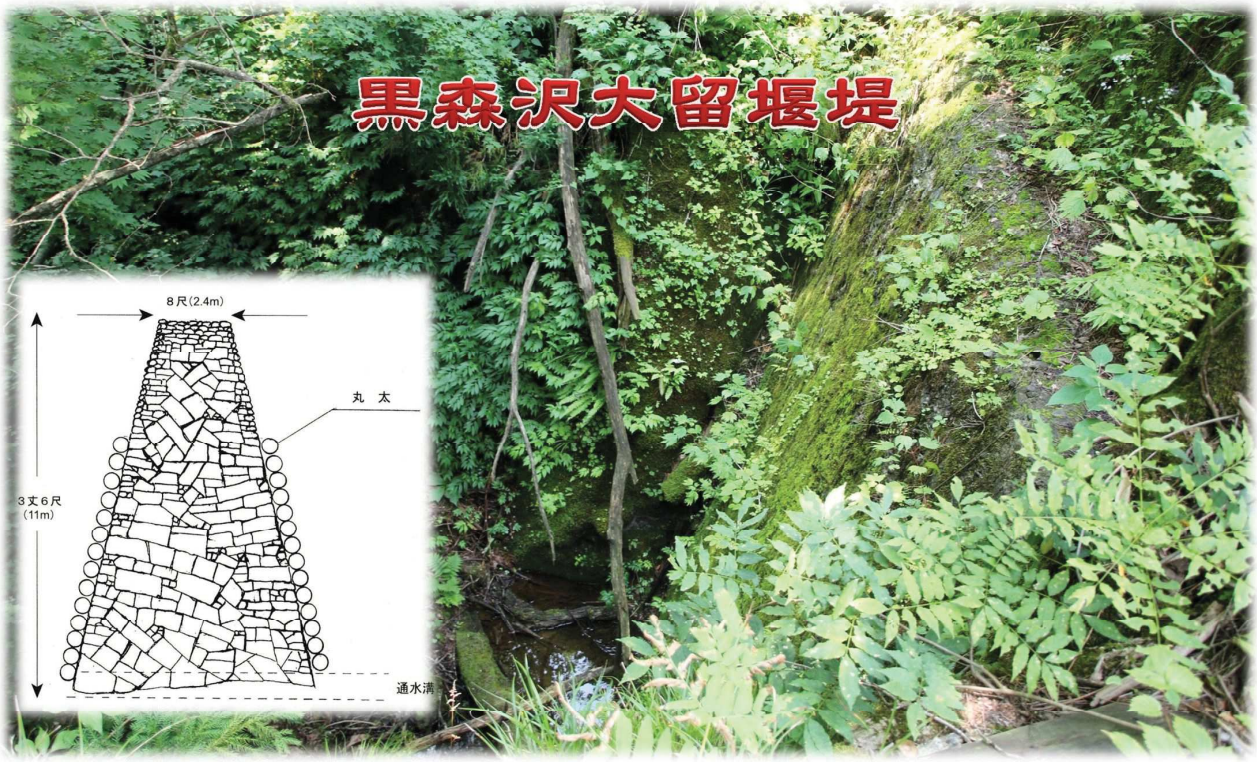
1712～1714年、長岐家五代目が開削

- 断崖絶壁に水路を切り開く難工事。
- どんな方法で堅い岩盤を掘り進んだのか？



尾去沢鉱山絵図「坑内の図」…坑道は幅60cm、高さ90cmで、人が作業をする最小限の坑道であったことが分かる。（秋大鉱業博物館蔵）→当時最先端の鉱山技術を応用

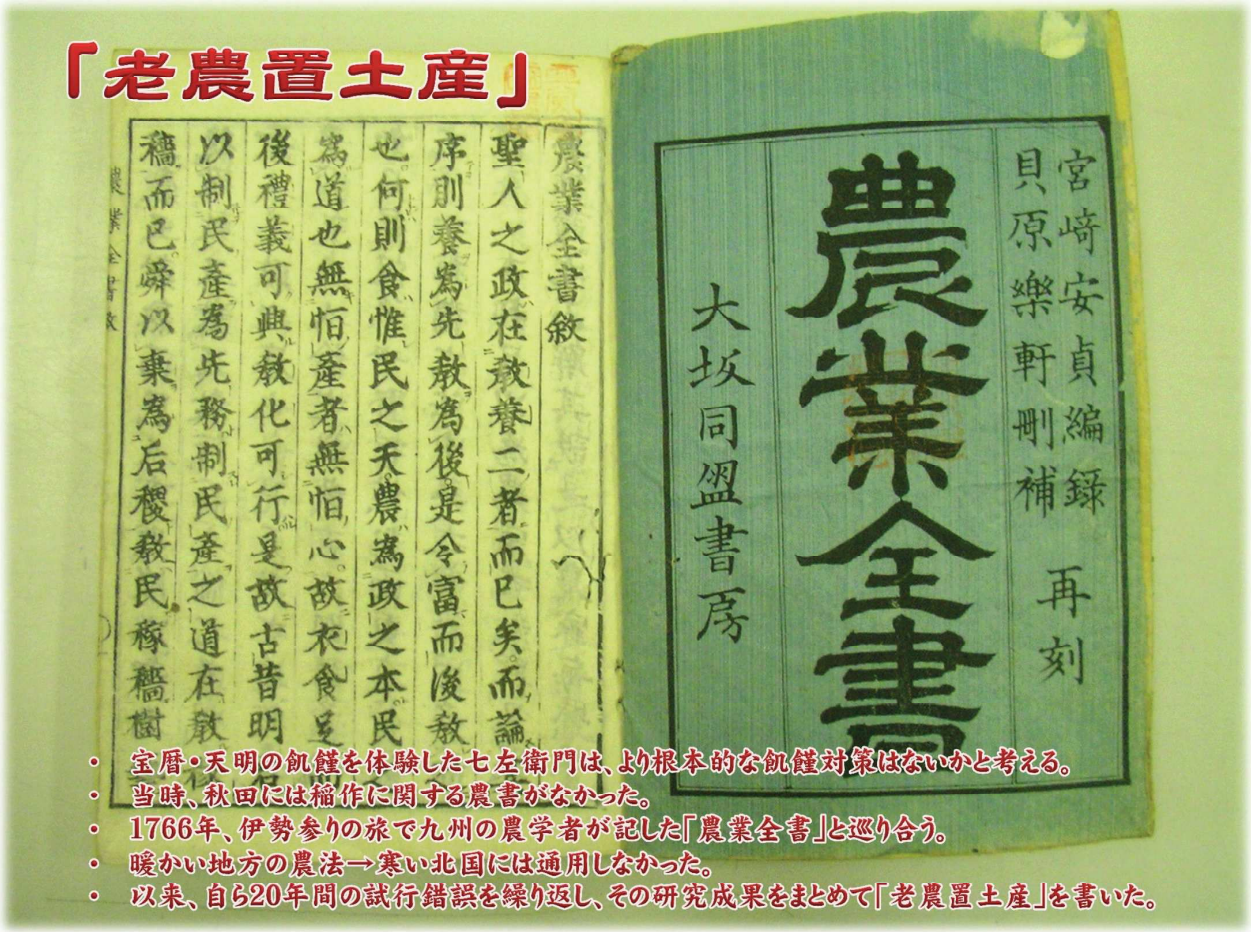
- 堅い岩盤を掘り抜く工法「焼掘」…火を焚いて岩を熱した後、水をかけて急激に冷やすことにより岩をもろくする。石が冷えるのを待って堀子がツチとタガネで掘り進んだ。



- 沢を横断する木製掛樋→石を積み上げたロックフィルダムに改修
- 七代七左衛門が1773～4年かけて完成
- 使用した石工(いしく)3,500人

- 七左衛門「大事代記」…桜ヶ台の堰筋にある樋が洪水の度に押し流された。
- 1766年～1769年、堅い岩盤の峡谷に、水路トンネル「岩穴堰」をつくった。
- 阿仁鉱山の技術がなければできない難工事。
- 当時の水利事業としては、最先端の技術で実施されたことが分かる。

- 羽立地内の堰下流左岸の山は「関根林」と呼ばれていた。
- 近くの「石転ばし」の岩場から大石を運び、杭と柴と玉石で堰堤を築く。
- 恐らく毎年のように雪代や洪水で破壊され、その度に修復したであろう→「関根林」「石転ばし」の地名から暴れ川に苦闘した歴史がしのばれる。



- 宝暦・天明の飢饉を体験した七左衛門は、より根本的な飢饉対策はないかと考える。
- 当時、秋田には稲作に関する農書がなかった。
- 1766年、伊勢参りの旅で九州の農学者が記した「農業全書」と巡り合う。
- 暖かい地方の農法→寒い北国には通用しなかった。
- 以来、自ら20年間の試行錯誤を繰り返し、その研究成果をまとめて「老農置土産」を書いた。

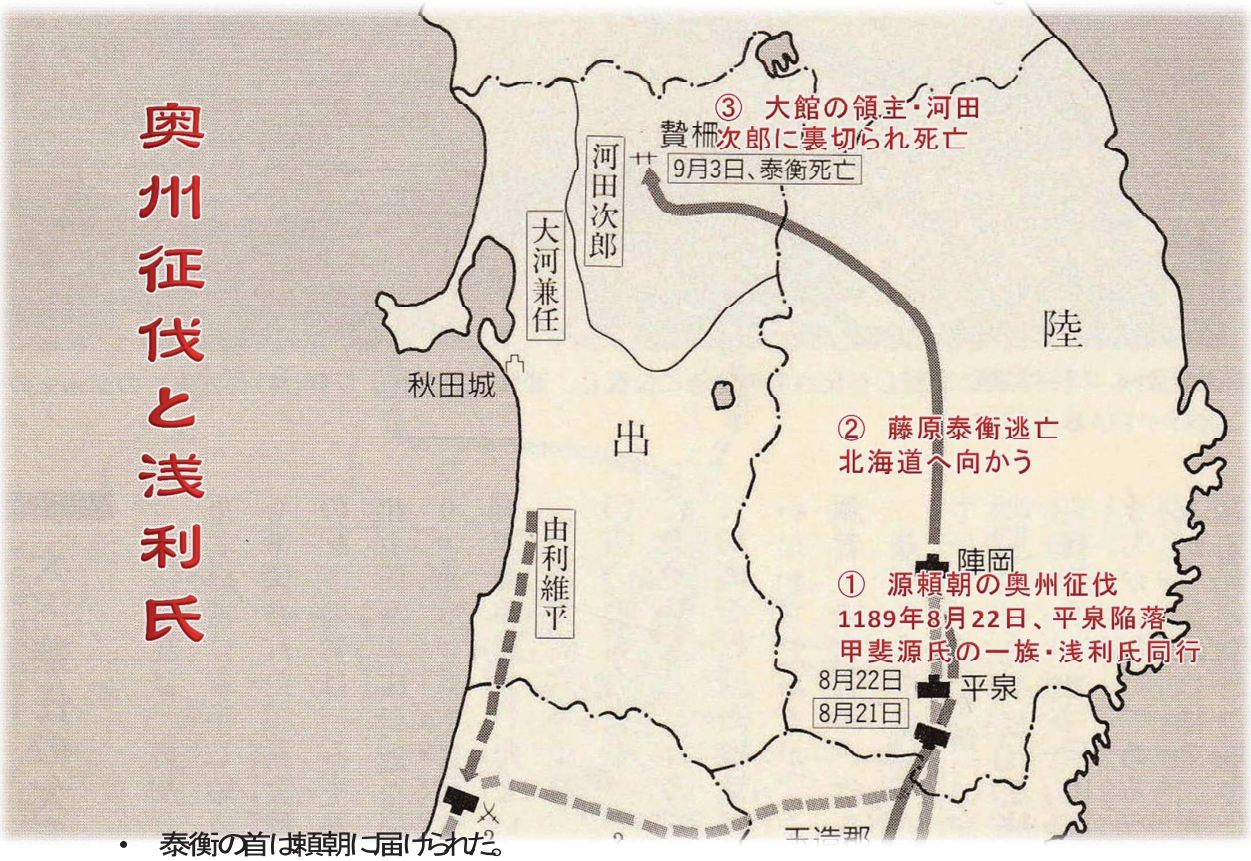
① 良い種を選ぶ方法として、良く熟した優秀な穂を抜き取ること
② 水に種子を入れ、沈んだ実入りの良いものだけを種モミにする「水選」の実施を強調。
③ 苗代は、苗をとった後、緑肥を入れて土地を肥やしておく苗代専用の「通し苗代」をすすめるなど、北国の風土にあった農業技術の普及に心血を注いだ。
④ かんがい用水の確保のための川留め、関根留めを記述。
⑤ 山林経営を農村の維持発展の一条件…森林と水の重要性を強調。

- 「天保凶飢見聞記」…鷹巣地方の見聞。倒れた馬にからりついて生肉を食い、行き倒れとなった死体をオオカミやカラスが食いちぎる。
- 天保3(1832)年、4年、5年、6年、7年と5年連続の凶作。
- 中でも4年が大凶作で、巳年→「巳年のけかち」と呼ばれた。
- 秋田藩の人口40万人のうち死者が10万人出たとの説もある。

- 「秋田県史」(二巻)…藩政期約260年間に凶作は71回、4年に一度発生
- 明治の東北地方…24回もの凶作。特に明治35年と38年は大凶作。身売りや欠席児童が多く、学校教育が不可能に。
- 特に積雪寒冷地帯・北東北三県は、昔から凶作飢饉常習地帯→ブナ帯文化(稲作+ブナ帯の森の恵み、川の恵み)
- 貧農救済に生涯を捧げた人物、老農石川理紀之助が誕生

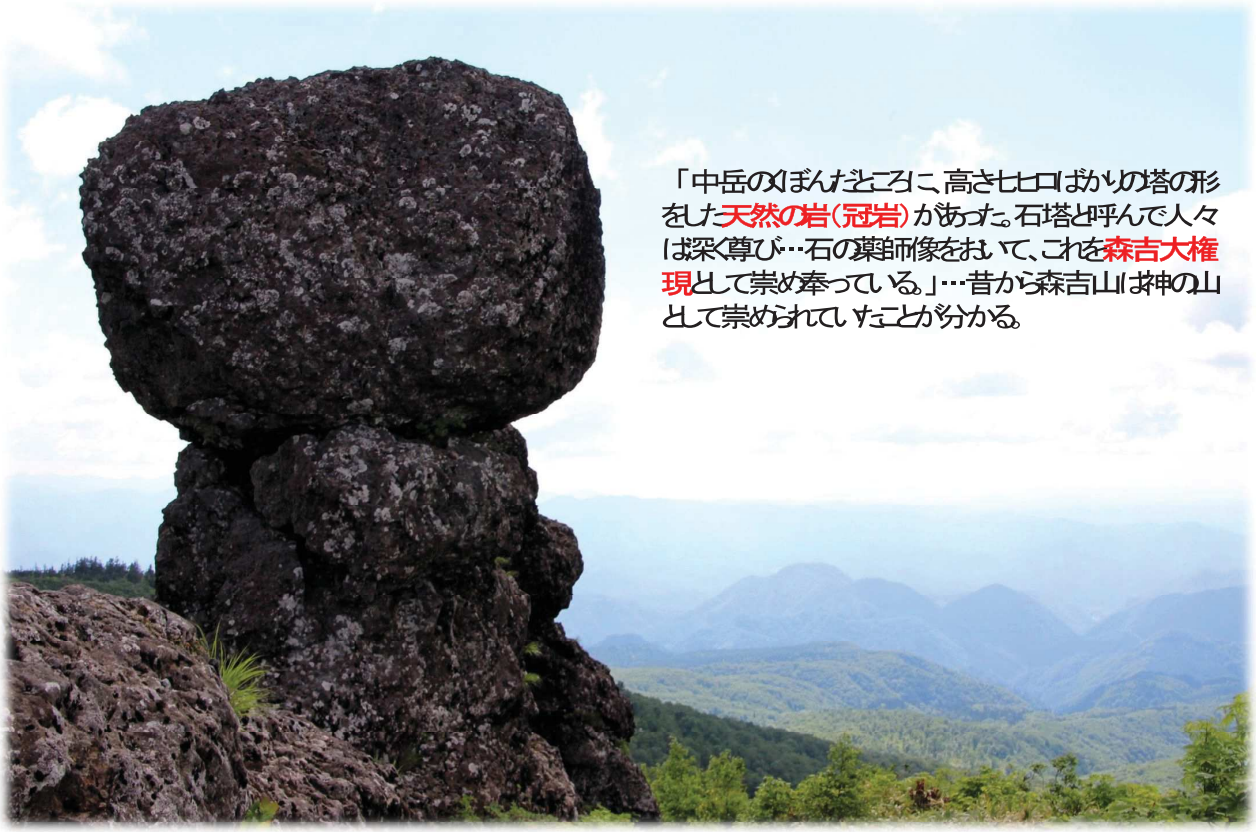
晩年の石川理紀之助(66歳、明治43年)　青年時代の石川理紀之助

「羽立という村と、明利又村との間の細道のかたわらに、田畑の中から掘り出したという浅利一族の墓碑だというのが十三も並んで立っている。みな文字は消えてしまって…嘉吉（かきつ）某年（1441～1444年）とどうやら読み解くことができた。」



- 泰衡の首は頼朝に届けられた。
- 河田次郎は、主君を裏切った罪で打ち首、領地を没収
- その比内郡に浅利氏が入った

モロビのきゆめ火の風習…「森吉山は一面モロビ(アオモリトドマツ)が生えている。
登った人は、必ずこれをみやげに折って下り、一年中、朝夕、きゆめ火に用いる。」



「中岳のくぼんだところに、高さ七七口ばかりの塔の形をした天然の岩(冠岩)があった。石塔と呼んで人々は深く尊び…石の薬師像をおいて、これを森吉大権現として崇め奉っている。」…昔から森吉山は神の山として崇められていたことが分かる。

「神の花畑というところがあって、七草をはじめ、ゼンテイカ、オオバキボウシ、あれやこれやの花が一面に咲いている。」→現在、花の百名山

トチノキ沢、木こりの半三郎に宿…「柄が4尺余りの鎌で、ホリコというものに竹火をともし、屋の隅まで明るく照らして、ものを食べ、安らかに寝ることができた。」

坑内にネマガリダケの竹火を持って働く鉱夫を掘子と呼ぶのにならって、竹火をさす器をホリコと呼んでいる。

阿仁銅山働方之図
（秋田大学 鉱山絵図・絵巻デジタルギャラリー）

「みかべのよろひ」1805年8月11日

「戸鳥内の村にきた。この辺りはもと蝦夷が住んでいたのであろう。山かげにオカシナイ(笑内)というところがあるので、それと知られる。アワ、ヒエ、キビをつくる山畑を開墾していたとき、人の面のような土器を掘り出したことがあるという。それをみると、陸奥の津軽(三内丸山遺跡)の畑から掘り出されたものと同じであった。」

1805年8月15日…「山ひとつ越えると根子という部落があった。この村はみな、マタギという冬狩りをする猟人の家が軒を連ねている。このマタギの頭の家には、古くから伝えられる巻物を秘蔵している…かれらのつかう山言葉の中には、獲物の肉をサチノミ、米を草の実といい、その中には蝦夷言葉もいそう多かった。」→現在、阿仁はマタギ発祥の地、マタギの里、全国マタギの本家

阿仁銅山と旅マタギ

阿仁銅山働方之図（秋田大学 鉱山絵図・絵巻デジタルギャラリー）

藩の鉱山経営が赤字になると、炭焼きのコスト削減。天保10年（1839）10月、阿仁の請負人7人は、連名で炭焼きの請負値段引き上げを願い出た。「従来の値段では、安くて妻子も養えない。だから他国へマタギ商売に走いたりする者が後を絶たない。その旅マタギに出る者は、特に打当村と中村の山子に多かった。」と記されている。

秋山郷と阿仁マタギ

写真：秋山郷総合センター「秋山マタギの狩猟文化」

同じ1800年代、阿仁町打当の旅マタギ・忠太郎とその息子・松之助が長野県秋山郷大赤沢の婿として定着。その松之助の三代目に当たる秋田マタギの子孫がクマ獲り文五郎。新潟・長野両秋山郷に彼らの子孫が婚姻等によって広がり、明治から大正にかけて狩りの組織がつくられていった。

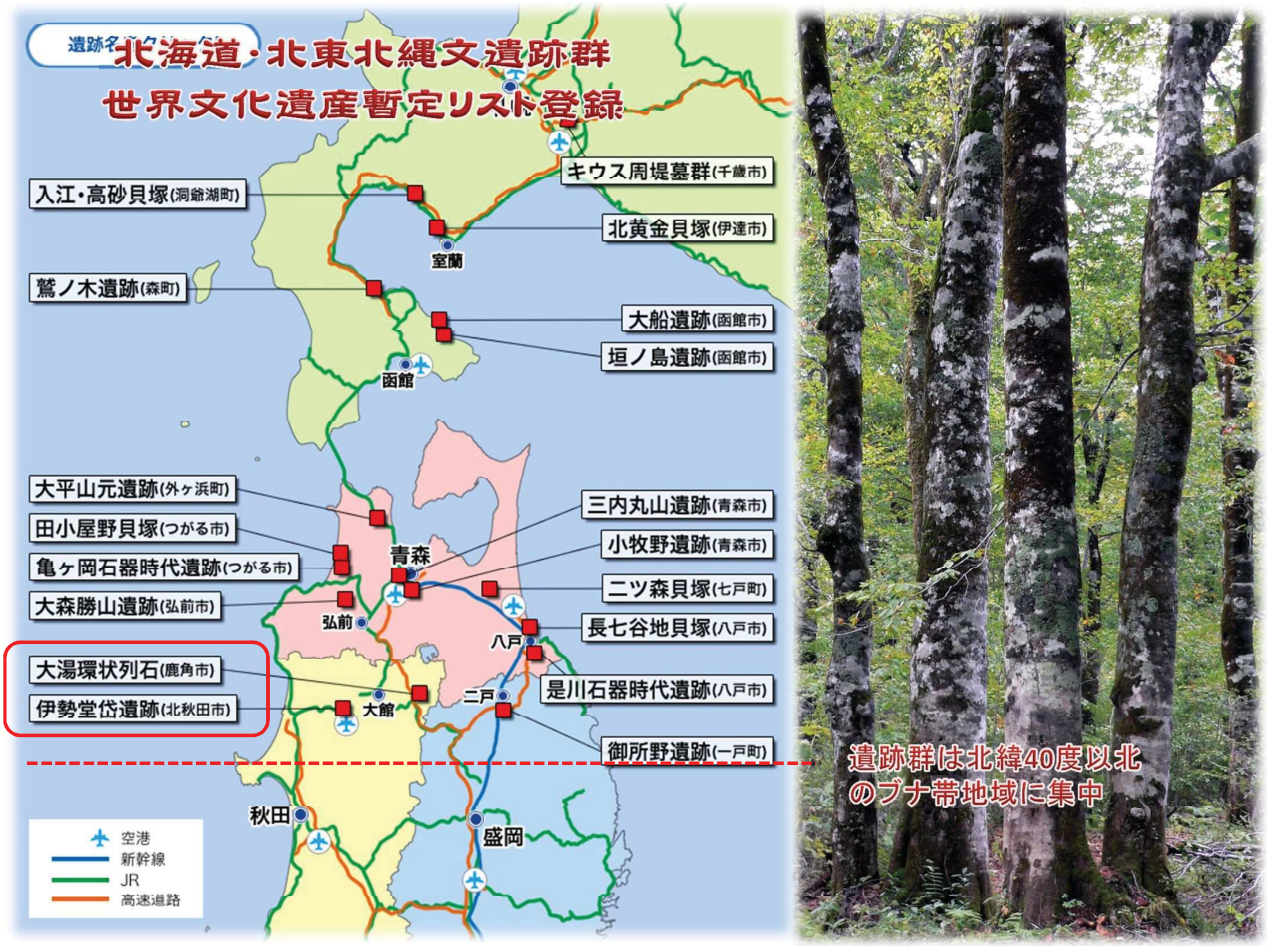
→秋山郷の猟師は、「阿仁マタギは本家」

第1回は1990年3月、新潟県三面集落の公民館で開催
新潟県三面集落、長野県秋山郷、秋田県阿仁町 36名参加

- 大湯環状列石･･･鹿角市大湯地区は元マタギ集落。
- 大湯地区は、三湖伝説の主人公･八郎太郎出生の地、八郎太郎はマタギ。
- 伊勢堂岱遺跡･･･マタギの本家･北秋田市→マタギは縄文の末裔

40

国指定史跡
伊勢堂岱遺跡
遺跡が発見された台地は、白神の山々の眺望の良さが際立っている。その景観から、「母なる森・ブナ」が生み出した文化であることが分かる。


遺跡名
北海道・北東北縄文遺跡群
世界文化遺産暫定リスト登録
入江・高砂貝塚(洞爺湖町)
キウス周堤墓群(千歳市)
北黄金貝塚(伊達市)
室蘭
鷲ノ木遺跡(森町)
大船遺跡(函館市)
垣ノ島遺跡(函館市)
函館
大平山元遺跡(外ヶ浜町)
田小屋野貝塚(つがる市)
亀ヶ岡石器時代遺跡(つがる市)
大森勝山遺跡(弘前市)
三内丸山遺跡(青森市)
小牧野遺跡(青森市)
二ツ森貝塚(七戸町)
長七谷地貝塚(八戸市)
青森
弘前
八戸
大湯環状列石(鹿角市)
伊勢堂岱遺跡(北秋田市)
大館
二戸
是川石器時代遺跡(八戸市)
御所野遺跡(一戸町)
秋田
盛岡
空港
新幹線
JR
高速道路
遺跡群は北緯40度以北のブナ帯地域に集中

山の神が宿る森吉山(1,454m)と戸鳥内棚田
(「守りたい秋田の里地里山50」/県農山村振興課)

ご清聴ありがとうございました